



そして、誰でも名医になれるのです！

昨日、近畿地方も梅雨入り宣言がされました。曇り空の日々が続いていて、プール開きをしたものの、なかなか泳げる日がありません。太陽がまぶしい夏が待ち遠しい季節となりました。でも、この季節だからこそ味わうことのできる感動や、楽しさを大切にしたいものです。

さて、今年度のPTA活動のテーマは、「守り育てよう、輝く瞳、心の泉～オアシス運動」ですが、こんなお話が、新聞に紹介されていました。

◇◇◇ ◇◇◇

「名医」というのは、優れたお医者さん、腕のいいお医者さんということです。

では、今日の話の「名医」はどんな人か、といいますと、「おばちゃん」なのです。

ある人が、病気で入院をしました。毎日1回、担当のお医者さんが病室を回ってきて、様子を見てくれました。そのたびに声をかけてくれるのです。

「うーん、再発するかもしれない…」

「すごく大変な症状だ…」

「治っても、ずっと通院が必要ですよ」

毎日、病室に来るたびに、このような言葉を繰り返していたのです。

お医者さんは、医者として、事実を伝える義務があるから話してくれているのだ、私を心配して声をかけてくれているのだ、ということがわかっているのですが、心は、どんどん暗くなっていきました。

何度も布団をかぶって落ち込みました。心配が心配を呼び、眠れない夜もありました。急にめまいがおこったりすることもありました。

そんなとき、10時になると「おはようございます」と言って明るい声で病室に入ってくるおばちゃんがいました。部屋の掃除に来てくれるおばちゃんです。

おばちゃんも、毎日1回、声をかけてくれました。

「ああ、今日は顔色がいいわねえ」

「入院した日は大変だったものね。よくがんばったね」

「わあ、朝食全部食べたのね、エライ！」

「あら、もうそんなに歩けるの！」

おばちゃんは、もちろんお医者さんではありません。でも、おばちゃんの一言で気分がパアッと明るくなって、元気になるのです。

だから、掃除のおばちゃんは、「名医」なのです。というお話です。

最後に、こんな言葉があります。

「そして、誰でも名医になれるのです」

◇◇◇ ◇◇◇

言葉で人の心を明るくしたり、人に元気を与えたりする掃除のおばちゃんのような「名医」が、この能登川南小学校にもたくさんいます。

毎朝、大きな声で「おはようございます」と言ってくれる子どもたちの笑顔を見てみると、今日もがんばろうという気になりますね。もっともっと増えてくれることを願います。

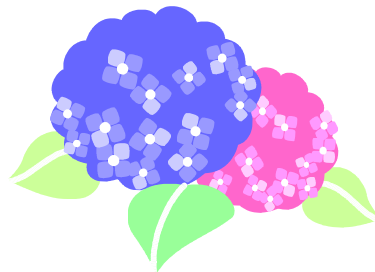


Photo News

フォトニュース



公園探検（１年）



猪子山探検（３年）



めだかつかみ（５年）

環境学習のひとつとして山路川の支流にすむめだかを探しに出かけました。



野菜づくりを学ぶ（２年）

地域の人に教えていただきながら、キュウリやトマトなどの苗を植えました。実ができるのが、今から楽しみです。



ごみの学習（４年）



猪子山森林再生事業（６年）

八日市南高校の人たちに教えてもらいながら、猪子山にどんぐりの苗木を植えました。この活動も、３年目に入りました。